

## 聖地巡拝⑦ 富士塚

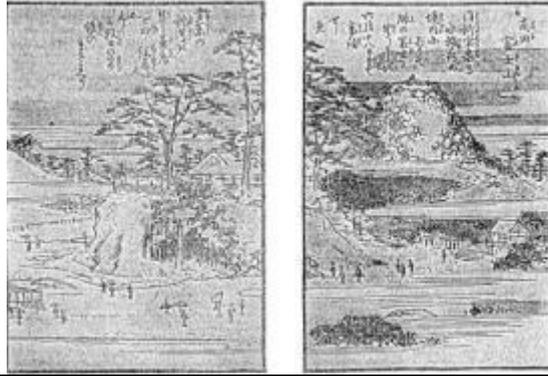
初月並祭りでの富士信仰勉強会には、たくさんのご参加をいただき有難うございました。その際、ご要望をいただいた「富士塚」を今回は取り上げていこうと思います。

角行師が「富士講」を創設される(当初は名称、組織共に最盛期のものとは異なりますが)以前から、「富士塚」という形態は各地に存在していました。それらの多くは、現在の私達がイメージするような「富士山を模した塚」ではなく、単に土盛りをした塚や、丘陵地に浅間神社を勧請したものであったようです。

体力的な問題や、物忌みの観点から登山が制限されていた人々に、富士登山の疑似体験ができるような富士塚を最初に築いたのは、身祿尊師の高弟であった高田



(藤井)藤四郎でした。斎藤月岑の手になる『武江年表』には  
・安永九年(1779年)  
○五月、高田宝泉寺に石を積りて富士山を築、今月成就す。  
と記されており、これをきっかけに江戸の各地に多くの富士塚が競うように作られて行きました。



この富士塚第一号の塚は、新宿区早稲田の水稲荷神社にあり、その地名から「高田富士」「富塚富士」などと呼ばれていました。(下段の二枚の写真は昭和三十六年当時のもので、上段の高田藤四郎像とともに、丸藤講先達井田三郎師よりご提供いただきました。)



元来、植木職人であった藤四郎は、富士山より溶岩を取り寄せて山肌を覆い、山頂には浅間社、向かって右中腹に小御嶽、左上部に烏帽子岩、山裾に胎内と、富士塚の定義を示したとされています。藤四郎が没後もその守りを誓うほど愛した高田富士も、都内の開発の機運には勝てず、昭和三十九年に水稲荷社の移転と共に棄却、移転されます。その発端は隣接する早稲田大学の創立八十周年記念事業の校舎の拡張計画でした。富士講関係者の反対も敵わず強硬されたこの移転には、ツタンカーメンの呪いばりの因縁話さがさやかれています。



下谷坂本の富士 (文政十一年)



高松町浅間社の富士 (文久二年)



江古田浅間社の富士 (天保十年)